

宇都宮ハイキングクラブ 40 周年記念講演会 記録

2021.12.03

日時 2021 年 4 月 11 日(日) 10 時～11 時 50 分
会場 栃木県総合文化センター ギャラリー棟 3 階 特別会議室
講師 登山愛好家 田部井 政伸
演題 「一歩、一歩ありがとう～妻・田部井淳子と歩いた道～」



(1)講師 登山愛好家 田部井政伸



(2)北側から望む標高 8,848 m のエベレスト



(3)ネパール側から見たエベレストと月



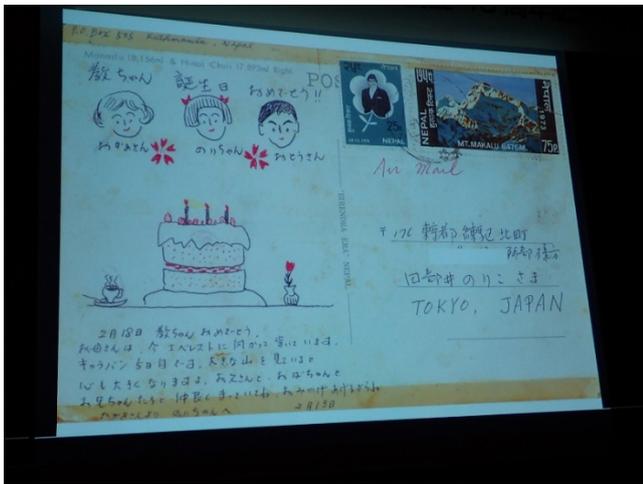
(4)1974 年 11 月 娘 3 歳と田部井夫婦



(5)1974 年 12 月に出発する妻を見送る田部井親子



(6)1975 年雪壁の氷河を登っている妻



(7) 1975年エベレスト遠征中の妻が娘の誕生祝に送った絵葉書



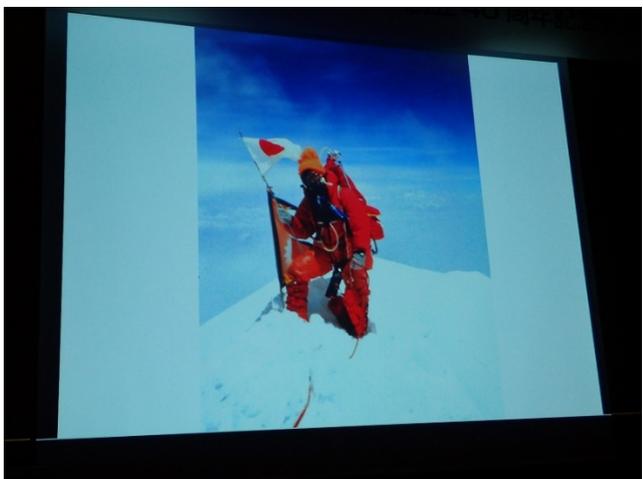
(8) 1975年5月、エベレスト登山中に雪崩で登山隊の荷物が流され、妻も打撲傷を負った



(9) 1975年5月、エベレスト日本女子登山隊の先頭を歩く妻



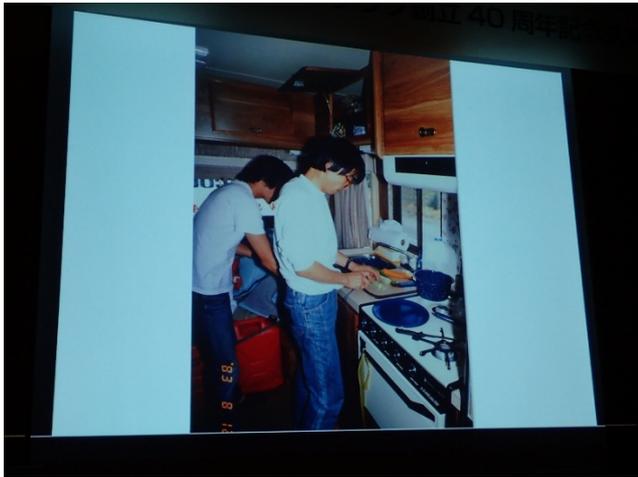
(10) 1975年5月のエベレスト 8500m



(11) 1975年5月16日 妻が世界最高峰エベレスト 8846mの頂上に女性で初めて立った



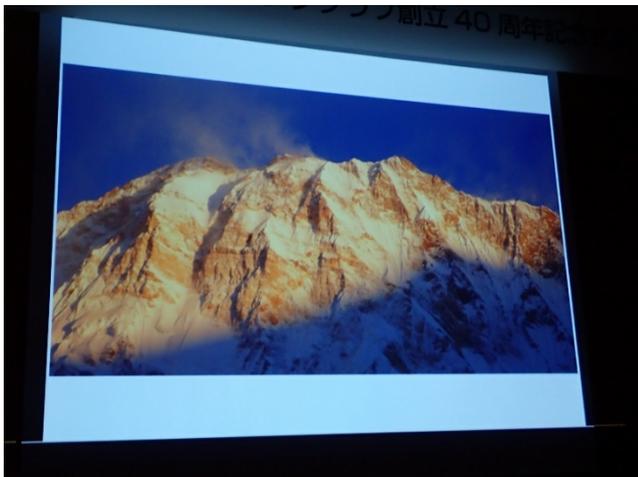
(12) 1988年に交代で50ccバイクを運転し、アメリカ大陸横断をノンストップで6日6hrで横断した時の田部井政伸さんと息子と仲間4人



(13) 1988年に50ccバイクで横断した際に
伴走した車内キッチンの様子



(14) 50ccバイクを運転してネバダ州の砂漠近くを
走行中の田部井政伸さん



(15) 2013年に田部井政伸さんが
アンナプルナ登山



(16) 2013年アンナプルナ登山ベースキャンプで
の田部井政伸さん



(17) 1998年韓国国境に近い北朝鮮の
金剛山(クムガンサン標高 1,638m)



(18) 1998年韓国国境に近い北朝鮮の金剛山(クム
ガンサン)の山頂に立つ田部井政伸さん



(19) 1998年北朝鮮側から見た、38度線近くの韓国の国境事務所



(20) まだ国交していなかった2003年のキューバ



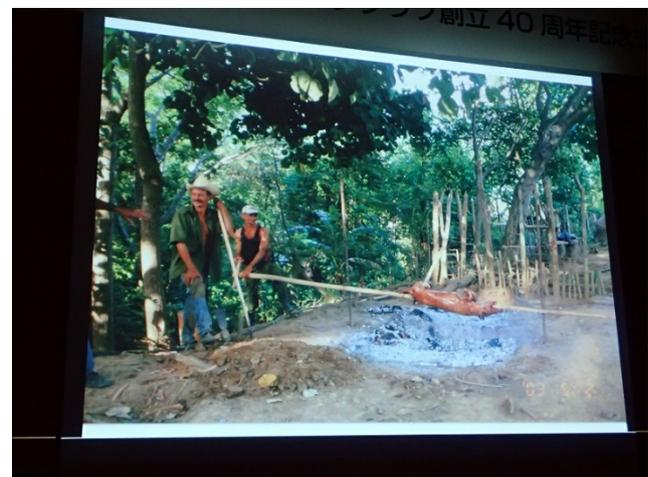
(21) まだ国交していなかった2003年に訪れたキューバの博物館壁の実弾の跡



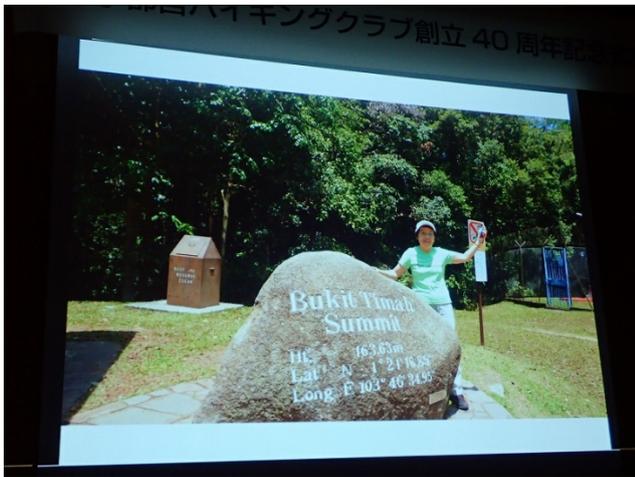
(22) 2003年に訪れた時はキューバのゲリラの宿場を借りた



(23) 2003年キューバ最高峰ピコ・トルキーノ(1974m)山頂での田部井夫婦



(24) 2003年キューバを訪れた際のブタの丸焼き



(25) 2014年に妻が脳腫瘍の手術後に出かけたシンガポール最高峰ブキ・ティマ 163m 山頂での妻



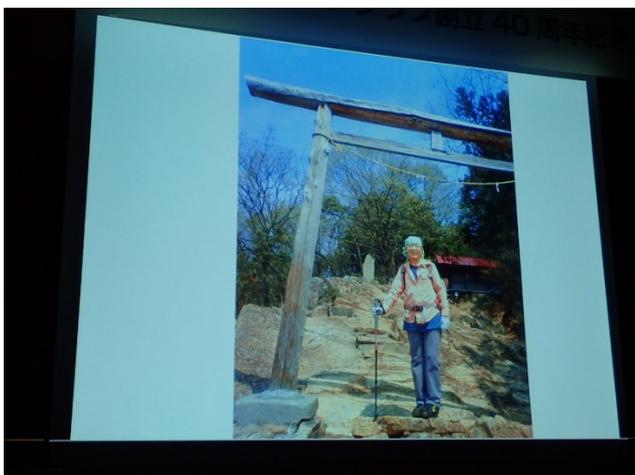
(26) 2015年2月27日 HAT-J 東北応援プロジェクトの妻と福島県大熊町の仮設住宅で暮らしている人達との裏磐梯スノーシューハイク



(27) 2012年暮れに妻が腹膜がん寛解と診断を受け安定してきた直後にバングラデシュ最高峰ケオ克蘭ドン 1230m に田部井夫婦で登頂



(28) 2016年5月にインドネシアのスマトラ島最高峰クリンチ山 3805m に田部井夫婦で登頂。妻が登った最後の海外の山。



(29) 2016年自宅から毎週のようにリハビリに出かけた日和田山の二の鳥居前での妻



(30) 「MJリンク」の人達と、2016年6月に福島県雄国山に夫婦で出かけた



(31) 「MJリンク」の人達と2016年6月に福島県雄国山に夫婦で出かけた時の集合写真



(32) 「被災した東北の高校生の富士登山応援プロジェクト」に参加した高校生達を、富士山山頂で出迎えてくれた人達



(33) 高校生達と妻との富士山山頂での記念写真



(34) 2012年に妻が富士登山応援プロジェクトをスタートさせた



(35) 参加した高校生が高山病などで疲れ切って休む様子



(36) 参加した高校生達が標高約3600mの九合目の鳥居を通過する様子



(37)「被災した東北の高校生の富士登山応援プロジェクト」に参加した高校生の登山風景



(38) 1939(昭和14)年9月22日に妻(田部井(旧姓 石橋)淳子)は福島県三春町で生まれた

講演 記録

- ・ 1939年9月、石橋淳子が福島県三春町に生まれる。・・・写真(38)
- ・ 1941年10月、田部井政伸が群馬県生まれる。
- ・ 石橋淳子が10歳の時に那須の山に初登山して驚き、そこで芽生えた好奇心、知らない世界への憧れを大人になるまで持ち続けた。
- ・ 田部井政伸が10代半ばに結核を患い、それが原因で骨盤カリエスになり、痛くて歩けなくなった。群馬県の工業高校時代(17~18歳)は入退院を繰り返し、2年遅れて卒業したが、卒業する頃には病気を克服し、故郷の山に熱中した。
- ・ 1961年に本田技研工業に入社。主に技術分野に勤務する傍ら、本田技研の山岳部に所属。冬の谷川岳一ノ倉沢コップ状岩壁第2登、谷川岳幽ノ沢中央壁左方ルンゼ初登攀。
- ・ 田部井政伸は、職域登山グループに入って色々な人と出会えた。
- ・ 夏に谷川岳一ノ倉沢の南陵ルートをやじ登り、田部井政伸が岸壁上部の大きなテラスの雪渓で小休止していた時、後続のパーティが登ってきた。田部井政伸が雪渓の雪のきれいなところをコッヘルに詰め、缶詰のゆで小豆を載せたコッヘルを小休止する後続の石橋淳子に差し出したところ、喜んで食べた。
- ・ 田部井政伸と石橋淳子は、好きなことを好きな人とできること、思い出を一緒にたくさんつくれることから、結婚を考えるようになった。
- ・ 義母(石橋淳子の母)が考えている結婚相手は、義母の兄弟や子供たちのように大卒で堅い職業に就いているのが絶対条件であったが、田部井政伸は高卒で勤め先がホンダというまだ一般的には知られていない会社であったことから、猛反対され結婚を認めてくれなかった。
- ・ 石橋淳子は、「勝手なこと、いい加減なことではできないので、絶対お母さんに理解してもらえるよう説得して、結婚する。ほかのことならなんでも母のいうことを聞くけど、この結婚だけは絶対にゆずれない。」と言っていた。
- ・ 1967年、田部井政伸が龍鳳登高会に所属していた石橋淳子と結婚。簡素な結婚式を挙げ、そのまま、リュックを背負って屋久島へ新婚旅行に出かけた。

- ・1968年に田部井政伸は日本登山学校海外遠征研究会の一員として、会社に長期休暇を申請しヨーロッパ・アルプス3大北壁を目指した。お金がないのでシベリア鉄道を利用したが、多くの女性が働いていたのに驚いた。グランド・ジョラス北壁を登攀した後に7月にツェルマットに移ったが、2日間天気が悪かった。マッターホルン北壁を登攀したが、岸壁登攀途中で足先を温めることが出来ず両足の指4本を凍傷で失い、リハビリに1年以上ついやした。
- ・田部井淳子は、誰も登っていなかったネパールのアンナプルナの北側から登る計画を進めていた。田部井政伸は、だめといっても行くのだから、どうせ行くなら気持ちよく送り出そうと思った。
- ・1970年に田部井淳子は「女性だけで海外遠征を！」を合い言葉に女子登攀クラブを組織し、女性9名のアンナプルナ日本女子登山隊が、5月にネパールのアンナプルナⅢ峰7555mを世界で女性初、日本人初の登攀をはたした。
- ・1972年2月に、田部井夫婦の長女の教子(のりこ)が生まれた。
- ・1972年8月に、女子登攀クラブにエベレストの入山許可がネパール政府からおりた。1974年にエベレストに登山する希望申請を出していたが、ネパール政府は1シーズンに1隊しか許可をだしておらず、既に他の隊が登ることが決まっていたので、1975年にエベレストに登る許可が出た。
- ・1974年11月、田部井親子が娘の3歳を祝う。・・・写真(4)
- ・1974年12月に田部井政伸と娘たちは、先発隊としてネパール入りする田部井淳子を羽田空港で見送った。・・・写真(5)
- ・田部井淳子がエベレスト登山で家を空けた半年間、一番大変だったのが3歳の娘のことで、田部井政伸と娘は都内に住んでいる義姉の家に居そうろうし、昼は娘の面倒を見てもらった。
- ・田部井政伸と田部井淳子は、お互いに多くの手紙を出し合った。田部井淳子からは、娘の誕生祝のハガキも届いた。・・・写真(7)
- ・1975年5月4日の真夜中、6400mの第2キャンプで雪崩に見舞われ、田部井淳子は雪の下に生き埋めになった。掘り起こされ全身打撲を負ったが、登頂作戦を続行した。・・・写真(6)(8)(9)
- ・1975年5月16日、田部井淳子は世界最高峰のエベレストに女性で世界初の登頂を果たした。・・・写真(10)(11)
- ・1978年8月に、田部井夫婦に長男の信也が生まれた。
- ・田部井夫婦の間にはいつもカレンダーがあり、日程を先に書き込んだ人を優先して、お互いに協力しあった。次第に田部井淳子の書き込みが、多くなってきた。
- ・子供が二人いたので、田部井夫婦のどちらかが家にいた。何かあったら残された子供が大変になるので、一緒に高い山へはあまり出かけないようにした。
- ・1988年に、出発前日に妻たちがインドのシヴァ峰の登山を終了した後に行方不明の報が入ったが、生きていたことがわかったので、田部井政伸は息子を連れて仲間と、史上初の北米大陸5600kmを50ccバイクでノンストップ(給油時以外)の横断を果たした。・・・写真(12)(13)(14)
- ・1998年に、田部井政伸が韓国国境に近い北朝鮮の金剛山(クムガンサン 標高1,638m)に登った。また、北朝鮮側から38度線近くの韓国の国境事務所を見た。・・・写真(17)(18)(19)
- ・2000年に田部井淳子が60歳になり、2001年に田部井政伸がホンダを定年退職したので、夫婦で山に出かける機会も増えた。
- ・子供たちも独立し、新たな予定を入れるにしても、それまでは持ち帰って家族の予定とすり合わせてしか返事ができなかったのが、お互いに自分だけの都合で即答できるようになった。
- ・2003年に、まだ国交していなかったキューバの最高峰ピコ・トルキーノ(1974m)に田部井夫婦で

登った。その際、壁に実弾の跡がある博物館に行ったり、ゲリラの宿場を借りたり、ブタの丸焼きを食べたりした。・・・写真(20)(21)(22)(23)(24)

- ・田部井淳子は2007年に乳がんを患い、闘病を続けながらも山登りを中心としたさまざまな活動を精力的に続け、田部井政伸は田部井淳子を支え続けた。
- ・田部井淳子は「若い新しい人には楽しい山登りを体験してもらう必要がある。雨の日に行ったのはいやになり山登りを止めてしまう。」と考えた。そこで、
- ・2009年に田部井淳子は子育てや仕事などで忙しい若い世代の女性たちにも山や自然に親しんでもらいたいと20～40代の女性のための山の会「MJリンク」を立ち上げた。
- ・福島県猪苗代町に90人泊まれる沼尻高原ロッジを持っていたが、2011年3月11日の東日本大震災以降、沼尻高原ロッジに浜通り人が何人か避難してきた。
- ・2011年6月から田部井淳子は自分たちにできる東北支援として「HAT-J 東北応援プロジェクト」を立ち上げた。
- ・芦ノ牧温泉には800人が避難していたので、ハイキングの貼紙をしたところ、避難者5名が参加し、良い気分転換になったと喜んでいました。
- ・そこで、仮設住宅で暮らしている皆さんなどを対象にしたハイキングやウォーキング、広く山岳愛好者を対象に東北地方の山に行く登山やハイキングなど、様々なプログラムを企画し、毎月実施した。田部井淳子同行のハイキングは、震災以来、「(HAT-J)東北応援プロジェクト」として60回以上になった。
- ・2012年に田部井淳子は山や自然を愛する大人にできることは何かと考え、日本一の山から次なる東北を支える「勇気」と「元気」をもらって前へ進んでいってほしいと願い、被災した東北の高校生1000人に夏休みに日本一の富士山に登ってもらい「被災した東北の高校生の富士登山応援プロジェクト」をスタートさせた。・・・写真(32)(33)(34)(35)(36)(37)
福島ならば磐梯山が良いのではないかとの意見もあったが、田部井淳子は「高校生は志を高く持ったほうが良い。」と考え、富士山にこだわった。
- ・2012年に、田部井淳子は乳がんが腹膜に転移して腹膜がんになり、闘病を続けながらも山に出かけ、田部井政伸は田部井淳子を支え続けた。
- ・2012年暮れには妻の腹膜がんが寛解との診断受け安定してきたので、直後にバングラデシュ最高峰ケオクランドン1230mに夫婦で登頂した。・・・写真(27)
- ・2013年に、田部井政伸がアンナプルナに登った。・・・写真(15)(16)
- ・2014年に、田部井淳子が脳腫瘍を患い、闘病を続けながらも山に出かけ、「病気になっても病人にはならない」と、山登りを中心としたさまざまな活動を精力的に続け、田部井政伸は田部井淳子を支え続けた。
- ・2014年に脳腫瘍の手術後に夫婦でシンガポールに出かけ、最高峰ブキ・ティマ163mの山頂に立った。・・・写真(25)
- ・2015年2月に、田部井淳子はHAT-J 東北応援プロジェクトで福島県大熊町の仮設住宅で暮らしている人達と裏磐梯でスノーシューハイクを行った。・・・写真(26)
- ・2016年5月に、インドネシアのスマトラ島の最高峰クリンチ山3805mに田部井夫婦で登頂した。田部井淳子が登った最後の海外の山となった。・・・写真(28)
- ・2016年6月に、田部井夫婦が2009年に立ち上げた20～40代の女性のための山のMJリンクの人達とツツジやウツギの咲く福島県雄国山に出かけた。・・・写真(30)(31)

- ・2016年夏も「被災した東北の高校生の富士登山応援プロジェクト」に総隊長として参加し、富士山の元祖7合目(3010m)まで登り、頂上へ向かう高校生たちを励まし、見送ったのが、長い登山人生の最後の富士山登山となった。
- ・田部井淳子は抗ガン剤による癌の闘病中にも体調の良い日は、リハビリを兼ねて自宅から近くの日和田山に毎週のように登った。・・・写真(29)
- ・2016年10月20日に、田部井淳子が腹膜癌で永眠(77歳)した。
- ・田部井政伸はその後、妻との日々について取材や講演で話をするようになった。
- ・2017年6月に、田部井政伸が著書に「てっぺん 我が妻・田部井淳子の生き方」(宝島社)を刊行した。
- ・2019年での「被災した東北の高校生の富士登山応援プロジェクト」の参加高校生の合計は、延べ679人になった。
- ・2021年の「被災した東北の高校生の富士登山応援プロジェクト」は、息子の信也が引継ぎ、コロナの影響で宿泊所が50人に制限され、ボランティアなしで、コロナ対策方法を熟知しているプロのガイドを付けて実施することになっている。
- ・2019年11月20日、田部井淳子の偉業を次世代に知ってもらうとともに、感謝の気持ちを伝えようと地元有志が寄付を募り、2016年10月20日に77歳で亡くなった登山家、田部井淳子の記念碑を日高市の日和田(ひわだ)山(標高305m)の登山道口付近に設置した。
- ・月命日(20日)になると、田部井淳子を慕う登山愛好家30~50人が自然発生的に日和田山に登り、物見山頂上にお昼に集まり、弁当を食べて解散る「思い出登山」が実施されている。

質疑応答

- ・田部井淳子さんが不在の時に、子供の預け先が大変だったとのことですが、どう対応されていたのですか。
 - 義姉の家で預かってもらった。また、近所の仲間をお願いしたこともあった。
- ・コロナ禍で山歩きができないなか、普段行っている健康維持方法、毎日行っていることは何ですか。
 - 今年で80歳になり、毎日6:30にラジオ体操を行っている。週1~2回、里山の山の会に参加している。大きな山ばかり登っていたが、コロナ禍で里山の良さがわかった。
 - また、時間あるので、買い物は出来るだけ遠くのスーパーに行くようにし、必要なものを毎日1か所で少しずつ買い、毎日出かけるようにしている。

写真・文：渡辺正夫